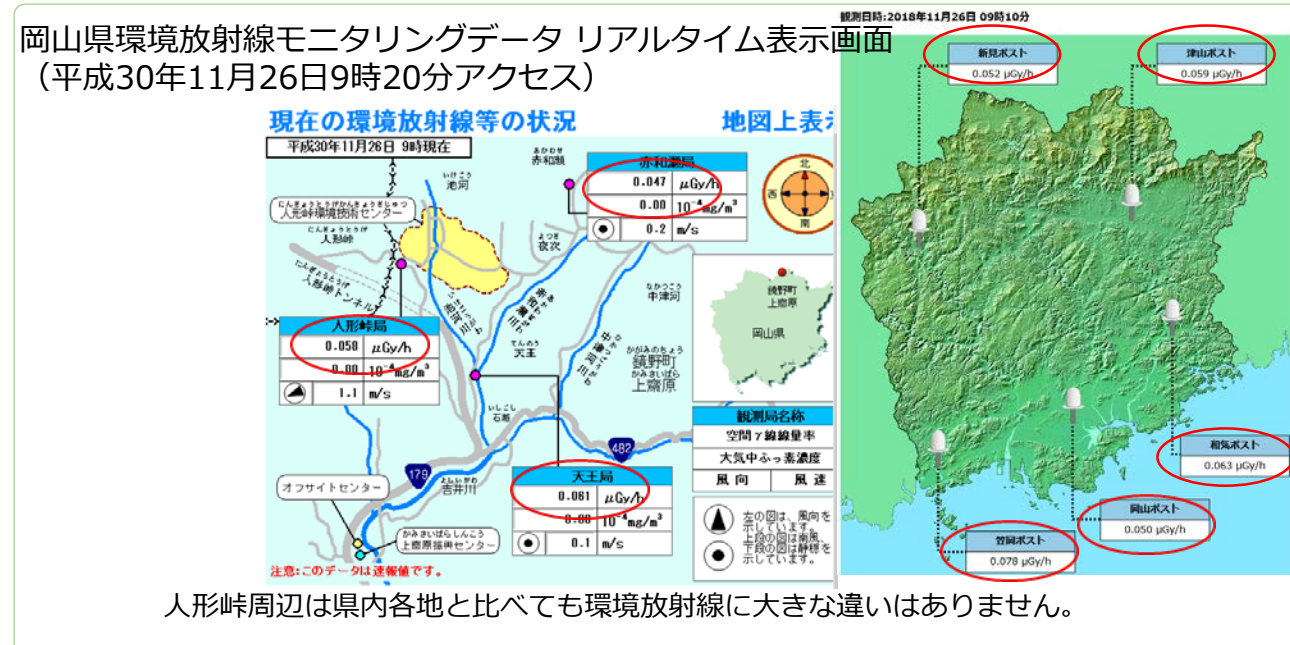


人形峠環境技術センターでは、何よりも安全の確保を最優先に仕事を進めています。法令や鏡野町などの自治体との約束を順守するとともに、放射線量を常時監視しています。
また、事故対策訓練（年1回は岡山県原子力防災訓練を兼ねて、現実には起こり得ないと思われる仮想事故・事象についても対処する訓練）を行っているほか、定期的な点検・監視整備を行っています。
これまで、環境放射線に異常が確認されたことはなく、今後も継続して安全確保に取り組めます。



環境放射能測定等に使用する専用車 機器や空気の汚染検査 地震を想定した訓練の様子



人形峠環境技術センターからの お知らせ (vol.3) 【現在編】

人形峠環境技術センターを見に来てください。

人形峠環境技術センターでは、研究施設などを見学いただけます。費用は掛かりません（人形峠までの交通手段は各自で確保してください）。お気軽にお申し込みください。

施設見学会（4月～11月までの第4日曜日）、平日の施設見学（毎週、水・金曜日）
（年末年始は除きます）

出前説明会へお伺いいたします。

人形峠環境技術センターでは、職員等が職場や地域などのグループへ出向き、エネルギーや放射線、人形峠環境技術センターの仕事について紹介する出前説明会を開催しています。会場はお申し込みされる団体のほうでご準備ください。お気軽にお申し込みください。

あけましておめでとうございます。
旧年中は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。本年もよろしくお願いいたします。

鏡野町さんのご協力をいただき、発行させていただいている人形峠環境技術センターからの「お知らせ」第3号をお届けさせていただきます。

今回は、人形峠環境技術センターの「現在編」をお届けいたします。

お問い合わせ先：人形峠環境技術センター総務課
TEL.0868-44-2211（代表）
URL <https://www.jaea.go.jp/04/zningyo/>



国立研究開発法人 日本原子力研究開発機構
核燃料・バックエンド研究開発部門
人形峠環境技術センター

人形峠環境技術センターの現在



人形峠環境技術センター全景と主な施設



- ◆ 開 所：1957年（昭和32年）8月
- ◆ 敷地面積：約120万平方メートル（東京ドーム約26個分）
- ◆ 施設の数：核燃料（ウラン）取扱施設 約30施設
 鉱山施設 鉱さいたい積場、捨石たい積場（岡山・鳥取両県に17ヶ所）から構成しています。
- ◆ 従業員数：約270名
- ◆ 現在の仕事：
 - ウラン鉱山及び関連施設の安全な管理と閉山措置
 - 製錬転換施設内の設備の解体
 - ウラン濃縮施設の廃止措置（遠心分離機等の解体）
 - 放射性廃棄物の除染及び減容や有用物のリサイクル技術の開発

廃止措置 2001（平成13年）～

- 人形峠環境技術センターで進めているそれぞれの施設の廃止措置は、大きく2つの段階に分けて進められています。
- 最初の段階は、施設・設備の解体です。不要になった施設・設備の解体を着実に進め、施設の老朽化などで生じる建物としての一般的なリスクを下げます。
- 次の段階は、解体物の除染と処理です。施設や設備の解体で生じた解体物を、放射性物質に汚染されていない一般的な産業廃棄物と汚染されている廃棄物に分別します。
- さらに汚染された廃棄物のうち、十分な除染によって安全に資源として再利用できるものについては、十分な除染を行い、資源として再利用します。その他の廃棄物については、放射性物質が外部に漏れないよう適切な処理を行うなど、埋設に道筋をつけるための技術開発を行います。
- また、災害等が起こった際には、全体工程を適宜見直し、安全対策を優先的に行うなど、安全を最優先にした廃止措置工程を進めています。

設備内に付着しているウランの回収（ウラン濃縮原型プラント）



- ウラン濃縮原型プラントにおいては、平成13年度から、設備内に付着しているウラン（滞留ウランといいます）の除去・回収試験を開始し、平成29年3月までに、ほとんどの滞留ウランを回収することが出来ました。今後は安全な設備解体作業に着手する予定です（平成30年9月28日に廃止措置計画の認可申請を原子力規制庁へ提出しました）。

設備の解体前後及び解体物の保管状況（製錬転換施設）



- 日本初の大型の核燃料施設での廃止措置となった製錬転換施設では、主要な試験設備の解体をほぼ終了し、解体物は収納容器等に収納して、建屋内に保管しています。
- 平成26年度からは、濃縮工学施設でも六フッ化ウラン（UF₆）ガスを取扱っていた設備の解体を開始しています。解体物の金属からウランを取り除き、金属を再利用する制度をクリアランス制度と呼び、一部は人形峠センターの屋外で再利用しています。

鉱山施設の閉山措置の状況（鉱さいたい積場）



- 鉱山施設でウランを取り出した後の残り物等をたい積している鉱さいたい積場については、上流部分は土で覆うなど安定化工事を実施し、その健全性、有効性の確認のための測定・監視をしています。下流部分は、上流部分の措置結果等も反映し、措置方法を検討しています。